

でんち

一般 電池工業会
社団法人 BATTERY ASSOCIATION OF JAPAN

〒105-0011
東京都港区芝公園三丁目5番8号
機械振興会館内
電話 (03) 3434-0261 (代)
ホームページ <https://www.baj.or.jp/>
ご意見・お問い合わせ <https://www.baj.or.jp/contact/>
発行人 清水義正

2022年6月

第54回定時総会および臨時理事会を開催

2022年5月31日(月)、一般社団法人電池工業会は、第54回定時総会を機械振興会館にて開催した。定款により村尾修会長(株式会社GSユアサ)が議長となり、開会に先立ち、競争法コンプライアンス・ルールを遵守するよう要請がなされ、その後、第1号議題が報告・確認され、第2号議題、第3号議題が審議され承認可決された。

定時総会終了後に行われた臨時理事会では、第1号議案が審議され、承認可決された。



1. 第54回定時総会

(1) 第1号議題(報告事項) 2021年度事業報告の件

議長の指示に従い、専務理事より、2021年度事業報告の説明がなされ、議長が議場に諮ったところ、第1号議題は確認された。

(2) 第2号議題(第1号議案) 2021年度決算報告の件

議長の指示に従い、専務理事より、2021年度決算報告書(案)の説明がなされた。監事より、監査の結果、経理上および運営上特段問題なかった旨報告された。議長は第

2号議題(第1号議案)について議場に諮ったところ意義なく、原案通り承認可決された。

(3) 第3号議題(第2号議案) 欠員役員補選の件

議長の指示に従い、専務理事から第136回理事会が推薦する役員を紹介した。

《一般社団法人電池工業会 欠員役員候補者名簿》

(任期: 2022年5月31日定時総会終了後~2023年5月開催の定時総会まで1年間)

役職	氏名	所属・役職
理事	只信 一生	パナソニックエナジー株式会社 社長執行役員

議長は、第3号議題（第2号議案）について議場に諮ったところ異議なく、原案通り承認可決された。

村尾会長から 生駒前副会長に3年間の副会長・理事ご担当への謝意と 只信理事のご紹介があり、生駒前副会長から退任のご挨拶、只信理事からご就任のご挨拶があった。



村尾会長

上記をもって第54回定時総会を終了した。

2. 臨時理事会

第54回定時総会の終了後、その場にて臨時理事会を開催することが、理事8名及び監事2名の全員から承諾された為、臨時理事会を開催することとした。

村尾会長は議長となり、当日の出席状況について、理事会構成員8名中出席者8名、監事出席者2名、欠席者0名であり、定款第31条第1項の規定に基づき理事会が成立することを報告し、開会を宣言した。

開会に先立ち、議長より出席者全員に対して、競争法コンプライアンス・ルールを遵守するよう要請がなされた。

(1) 第1号議案 副会長（代表理事）辞任に伴う後任者選出の件

議長より、生駒副会長が辞任したため、下記の通り後任副会長が推薦された。

《一般社団法人電池工業会 後任副会長 名簿》

(任期：2022年5月31日定時総会終了後～2023年5月開催の定時総会まで1年間)

役職	氏名	所属・役職
副会長 (代表理事)	只信 一生	パナソニックエナジー株式会社 社長執行役員

議長は、第1号議案について議場に諮ったところ、異議なく上記を承認可決した。

上記をもって臨時理事会を終了した。

後任の副会長として 只信一生氏を選出

第54回定時総会の終了後の臨時理事会にて、副会長を退任された生駒宗久氏の後任として、只信一生氏が新たに選出された。



只信副会長

経済産業省 商務情報政策局 電池産業室

武尾室長ご講話

2022年5月31日（月）、第54回定時総会/臨時理事会終了後の機械振興会館に、経済産業省 商務情報政策局 電池産業室 武尾室長、信夫課長補佐、本多係長にご来会頂き、武尾室長から 電池産業室、蓄電池産業戦略検討官民協議会の取組み状況についてご講話頂いた。電池工業会 正会員代表者・監事 17名、事務局 4名、合計 24名が参加した。

武尾室長ご講話の概要

これまで国の電池関連政策は複数の部局にまたがっていたが、2021年7月に新設された「電池産業室」が取りまとめるポジションとして政策を検討している。蓄電池産業戦略の策定のため、2021年11月に官民協議会を設立し、これまで4回の協議会を行った。その中間取りまとめとして以下3項目の目標を設定、その目標を達成するための手段として7項目の対応策を掲げている。

蓄電池産業戦略において目指すべき目標

- 1stターゲット：液系LiBの製造基盤の確立
 - ・遅くとも2030年までに、蓄電池・材料の国内製造基盤150GWhの確立
- 2ndターゲット：グローバルプレゼンスの確保
 - ・2030年に我が国企業全体でグローバル市場において600GWhの製造能力確保
- 3rdターゲット：次世代電池市場の獲得
 - ・2030年頃に全固体電池の本格実用化、2030年以降も我が国が技術リーダーの地位を維持・確保

今後の対応策

1. 製造目標達成に向けた更なる国内基盤拡充のための政策パッケージ
 - ・蓄電池・材料の国内製造基盤の確立
 - ・電池制御システム（BMS）の高度化に向けた対応
2. グローバルアライアンスとグローバルスタンダードの戦略的形成
 - ・蓄電池のグローバル供給のためのファイナンス確保
 - ・国際ルールの構築推進、安全性に関するグローバル・スタンダード形成
 - ・新たな用途での蓄電池利用や関連サービスの普及展開
 - ・セキュリティ・安全性を軸とした蓄電システムの海外展開
3. 上流資源の確保
 - ・資源確保のための政策支援の強化を検討



武尾室長

4. 次世代技術の開発
 - ・研究開発力で国際的にリードできるように、産学官連携により研究開発を推進
5. 国内市場の創出
 - ・蓄電池の供給サイドの強化と同時並行で、国内での需要喚起を進めることが重要
6. 人材育成の強化
 - ・まずは、蓄電池産業が集中している関西エリアを中心に、地域のニーズに合った人材育成を行う
7. 国内の環境整備強化
 - ・リサイクル・リユースの促進
 - ・サステナビリティ確保に向けた取り組み
 - ・再エネ電源による電力供給の拡大と電力コスト負担の抑制
 - ・関連規制の見直し（消防法）

夏に向けて最終取りまとめを行うが、官民一体となった取り組み・方向性にまもっていくので民間企業としての積極的なご協力をお願いしたい。

以上武尾室長のご講話後、電池産業室3名様と電池工業会正会員代表者、監事との名刺交換を行い、閉会となった。

第 103 回二次電池第 2 部会を開催

2022 年 6 月 3 日（金）、黒葛原会長（株式会社 GS ユアサ）を議長に第 103 回二次電池第 2 部会を Web 会議で開催した。開会に際して、事務局より BAJ 競争法コンプライアンス・ルールを遵守することが確認されたのち、黒葛原部会長ならびに清水専務理事の挨拶があった。続いて前回議事録の確認後、各委員会の代表者より今年度の活動内容の報告を行った。

1. 部会長挨拶

今年度の取組の以下 2 点について、委員の皆様のご協力と活発な活動をお願いしたい。

- ① 欧州電池規則に動きがでてきた。業界への影響が想定されており、CFP、安全・性能規格への取組の重要性が高まっている。計画通りの実行、推進をお願いしたい。
- ② 蓄電池産業戦略検討官民協議会で議論されている蓄電池産業の戦略の最終版が夏頃に発行される見通しがある。これまで提言されている蓄電池普及促進の内容をブラッシュアップして、最終戦略にどう取り込んでもらうかが重要であるとする。

2. 専務理事挨拶

- ・5 月 13 日 理事会、5 月 31 日 定時総会が終了して、2021 年度決算が承認された。これで 2022 年度の活動を本格的に推進していきますので宜しくお願いしたい。
- ・BAJ 体制において副会長である生駒さんが退任され、只信さんが後任として承認された。
- ・一方 政府において 蓄電池産業強化の論議が活発化されており、生産能力目標を国内 150 GWh、グローバルで 600 GWh と発信された。
- ・萩生田大臣からは、国として本格的に業界を支援すると明言されており、今後どのように連携していくかが重要である。国への政策提言を夏までに仕上げ 予算に反映するようにしたい。
- ・普及促進メンバーが主体になっているが、必要に応じて、各社社長と直接打合せを行い、橋渡しをさせて頂きたいと考えている。

3. 新規委員の紹介

エリーパワー株式会社 新委員から挨拶された。

4. 各委員会報告

各委員会より資料に沿って活動内容の説明がなされた。

◆技術委員会

1) 各分科会報告

<リチウム二次分科会>

・電安法の別表第十二に記載の JIS C62133-2 AMD 改正について検討中。

<LIB 安全性技術 WG>

・FISC 代替試験に関する対応を JARI と情報共有、釘差し時の電圧低下検出後に行う追い刺し量を DISC 試験で規定する。

<据置 LIB 分科会>

・産業用 Li 二次電池の安全規格(IEC 62619 ed2) IS 発行

<非駆動用車載 LIB 分科会>

・非駆動用車載 LIB 性能規格 (IEC63118ED1) CDV に移行

<ニカド・ニッケル水素分科会>

・IEC61951-1 : ED4 AMD の CDV 回付、IEC61951-2 : ED4 AMD FDIS ドラフト提出

<産業用ニッケル水素分科会>

・IEC63115-1(性能) : ED1 AMD は FDIS に移行、JIS C 63115-2(安全) : 火災予防条例の規制緩和を目的に、日本独自の規格(難燃材使用)を盛り込んだ JIS 規格化を推進。

・SC21A/WG1 エキスパートとして新委員を承認

<PSE-WG>

・電安法別表第九の廃止対応として、猶予期間の設置を要望。

<蓄電システム WG>

・電力貯蔵装置の新利活用に向け、保安評価に関し個社から意見収集。

・蓄電池設備等の設置に係る運用の通知対応として、消防令第 155 及び 156 号(通知文)が発行された。

<環境規格分科会>

・環境規格 IEC63218(二次電池)、IEC60086-6(一次電池)の規格統合は Q 文書発行後となる。

<リユース規格 WG>

・二次電池用リユース一般ガイダンス規格(IEC63338 ed1) 2nd CD 発行、IEC62933-5-3 の 2nd CD 発行。

・ICBR(国際電池リサイクル会議)に参加 (9 月) ザルツブルグ (オーストリア)

<CFP 規格分科会>

- ・IEC63369 の2nd CD に向けた月 2 回の国際会議に対応中。
- ・欧州議会では EU 電池規制の CFP の適用を前倒しの提案('23/7/1→'23/1/1)の動きあり。IEC63369 が議会とリンクしている可能性があり、我々に不利な記載がされないよう監視。

2) 関連委員会の対応

<108 委員会対応>

- ・IEC62368-1 ed4 CDV は引き続き審議継続中

<BASC 主催 ISO/TC333 国内員会対応>

- ・ISO16398、16423 に対し、反対及び PWI 登録要で投票。TC333 WG7 設置に対し賛成投票を予定

<欧州電池規則対応>

- ・3/10 欧州議会通過。4 月に 3 者会議が開始、2022 年中に公布される可能性あり。
- ・ポータブル機器用二次電池の規制強化を目的とした規格を 2025 年までに作成するよう指示がでている。

3) 技術委員会審議事項

- ・TC21/TC82(Secondary cells and batteries for Renewable Energy Storage)メンバー変更について審議、承認された。

◆国際電池規格委員会

- ・分野別、カテゴリー別の規格の進捗状況が報告された。
- ・環境系の新しい規格が 3 件、IEC61427-2(グリッド接続 ESS 用電池)の改正が正式に開始している
- ・注視している監視規格である TC120 が開発している IEC62933-4-4、-5-3 はリユースと関連しているので BAJ から積極的に情報を取っている。
- ・IEC63330 は CDV まで進んでいるが、リユースに関する規格で、残存性能をどう試験条件で確認するか、TR 文書で日本から提案する。
- ・IEC61427-2 の改正が開始され、電池メーカーからコメントする内容ではないが、セル・電池パックの性能・安全性を規定する規格にならないよう監視していく。
- ・ISO/TC333 リチウム資源の WG1-WG6 は WG2 を除き 5 月に開催された。現時点では規格の中味の審議はない。
- ・北京で開催される 2 回目の Plenary 会議に報告される内容を監視する。

◆国際電池輸送委員会

【国際電池輸送委員会】

(1) SAE G-27 WEB 会議 (3 月の F to F 会議 及び 毎月の定例会議)

- ・WEB 会議を通じてアクションアイテムの進捗を確認。
- ・Round Robin Testing Task Group における報告
- ・対象範囲を縮小した AS6413 基準書発行の要望があり、Li-ion 円筒セルの Baseline 試験を対象とすることが採択された。

(2) リチウム金属電池およびリチウムイオン電池の輸送に関する手引書(第 11 版)作成

- ・担当を割り振り、国際規則との差分を順次改定、23 年 1 月 発行予定

【WG】

(1) 小型全固体 LIB 輸送 WG

- ・国連危険物輸送専門家小委員会に、小型全固体 LIB の輸送規則緩和を 6 月に非公式提案、12 月に公式提案の予定。データ収集や関係者への説明 (海事検定協会、航空局、自工会、危険物 U N 対応部会) を行い、規則緩和に向けた国際会議への提案対応を進めている。

- ・提案 1 : 新たな国連番号取得、提案 2 : 現状の特別規定における除外要件を追加で文書作成

◆普及促進委員会

<普及促進委員会>

- ・蓄電池産業協議会政策提言 TF と合同開催。
- ・21 年度の政府への提言として、技術開発強化、生産運用強化、販売強化、循環型社会形成への貢献を経産省に提言した。令和 3 年度補正予算に「蓄電池の国内製造基盤を確保する (1,000 億円)」の盛り込みに貢献できた。
- ・電池産業室・武尾室長から、特に関税強化は非常に難しいが、継続的に提言してほしいとコメントをいただいた。
- ・BAJ として提言を行うのは蓄電池産業協議会傘下の政策提言 TF で、二次電池第 2 部会や技術委員会では提言書作成状況の報告のみとする。
- ・「蓄電池産業戦略検討官民協議会」や「蓄電池のサステナビリティに関する研究会」の内容を今年度の活動に織り込んでいく。
- ・普及促進活動として、各社から意見を募り、カーボンニュートラル目標実現に向けたプレーストリーミングを行い整理した。
- ・官民協議会対応として、経産省電池産業室と面会を行い、宿題事項を検討してフィードバックする。
- ・22 年 11 月に補正予算用の提言、23 年 3 月に最終提言を行う予定。

<法規 WG>

- ・LIB 電解液総量規制の適正化活動として、「危険物施設におけるスマート保安等に係る調査検討会」(2021 年度) が終了。消防危第 303 号において、保管時におけるキュービク

ル通風孔を遮炎性のある布で覆うことで、「箱」とみなすことを検討会にて確認。22年4月に消防第96号の通知文が

正式に発出された。

- 22年度の活動として、LIB 電解液総量規制適正化、蓄電池設備のリスクに応じた防火安全対策の検討、再生可能エネルギー等に関する規制等の総点検 TF、各種規制への対応検討を進める。

◆PL委員会

(1)消費者庁の事故情報収集

- モバイルバッテリーは、2018年2月1日よりPSEマークの対象(1年間の猶予期間)となったことにより、件数はさらに減少すると思われるが、今後も傾向を注視する必要がある。
- スマートフォンは、2017年7-9月をピークに減少傾向である。
- ノートパソコンは、2019年をピーク(47件)に減少傾向となり、2021年は5件と大幅な減少。
- 電動アシスト自転車は、2016年以降は年間15件程度だったが2021年に増加し過去最高(27件)。今後も発生件数、傾向性等を注視する。
- 充電式電気掃除機は、2019年スティック型クリーナの事故により増加したが、2020年に減少し2021年は微増であった。経済産業省より2021年10月29日付で非純正バッテリーパックの火災事故についてニュースリリースがあり、非純正品の事故情報が散見される。
- ポータブル電源は、2019年以降から増加傾向にある。事故内容は主に充電中の発火。PSE対象外のため、PSE不適合の電池により組み立てられた製品が海外から入るリスクがある。なお、ポータブル電源を製造・販売する国内メーカーは少なく、国内市場では海外メーカーの製品が大半を占めている模様。販売数が急増しているため、引き続き発生傾向を注視していく。

◆再資源化委員会

3.3 回収困難な電池の処置検討

回収困難な電池の定義をJBRCで回収できない電池とし、破損電池、解体取り出された電池、ラミネート電池、自主回収スキームなし電池(海外製の電池)などがある。充電式電池処理会社リスト化、電池回収に関するアンケート項目の確認を実施中。

◆広報総合委員会

- 「広く消費者に安全で正しい電池の使い方、回収・リサイクル方法の啓発」、イベント活動を通じて「子供たちに科学の面白さの体験してもらい、電池への興味の醸成する」と共に啓発活

動を行っていく。

(1) PR活動(3テーマを重点訴求)

- ① コイン形・ボタン形電池の乳幼児誤飲事故防止
- ② 自動車用バッテリーの定期点検・買い替え促進
- ③ 小型二次電池の回収・リサイクル、廃棄時の注意喚起

(2)キャンペーン

- ① 「電池は正しく使いましょう！」キャンペーン、3テーマを毎日新聞に掲載。

(3)イベント活動

- ① でんちフェスタ(2023年3月開催を検討)
- ② 手づくり乾電池教室・エネルギー体験教室の開催募集を実施。

(4)情報発信

- ① 機関紙「でんち」:毎月発行
- ② We LOVE DENCHI:内容を更新して増刷。

◆国際環境規制総合委員会

1.2 海外電池工業会との打ち合わせ

- ・日欧米電池専門家会議(TWG+)の事務局間打ち合わせを、2022年5月16日Web開催。水俣条約COP4第二部の結果を報告した。
- ・次回のface-to-face会議は、本年10月~11月頃、ブリュッセルで開催予定。

1.3 「世界の電池環境規制の状況」第12版作成

- ・2022年6月発行予定。

1.4 地域別環境情報

(1) 欧州

- ・2022年3月10日、欧州議会で電池規則案に対する修正案が採択された。
- ・2022年3月17日、EU理事会は欧州委員会の電池規則案を巡る基本方針(General Approach)を採択した。

2. 2022年度活動計画

2.1 環境関連国際会議への参加

- ・TWG+(日欧米電池専門家会議)(本年10月~11月頃)ブリュッセル(ベルギー)、欧州電池規則案が焦点になる。
- ・ICBR(国際電池リサイクル会議)に参加(9月)ザルツブルグ(オーストリア)、海外電池リサイクル状況の定点観測と現地リサイクラー視察

5. JBRC報告

I. 会員状況

II. 回収状況(2021年度累計)

III. 具体的施策実施内容

1. 小型充電式電池の安全な回収・収集運搬業務の強化

2. 管理・運營業の盤石化

IV. 2022 年度事業方針：「安全で持続可能な仕組みと体質の強化」

1. 安全な回収・収集運搬業務の強化
2. 再資源化業務の持続性強化
3. 管理・運營業務の盤石化

6. 事務局報告

1) 連絡事項

10th WRBRF が欧州で開催される予定で、PRBA、RECHARGE、KBIA の事務局と開催日程について打合せを行った。日程候補として、12 月もしくは 4 月の案がでたが、7 月、9 月の事務局間打合せで議論する。

2) 2022 年度日程

第 104 回：2022 年 9 月 9 日（金）13:30～16:30
Web 会議

第 105 回：2022 年 11 月 25 日（金）13:30～
16:30 Web 会議

第 106 回：2023 年 2 月 10 日（金）13:30～
16:30 Web 会議 or 機械振興会館

7. その他

・駆動用車載 LIB 委員会が発展的解消され、蓄電池産業協議会に移行されたが、情報共有方法は検討されているか？
⇒蓄電池産業協議会には 4 つのタスクフォースがあり、①政策提言 TF は普及促進委員会と共同開催、②リユース TF はリユース規格分科会、③標準化 TF と④法規 TF は車載電池関係、二次第 2 関係の会社が参加しているので、連携はできている。

以上、

2022年5月度の電池工業会活動概要

部会	月度開催日	委員会・会議	主な審議、決定事項
特別会議、他	10日(火)	新種電池研究会	新種電池講演会フォローアップ
	17日(火)	広報総合委員会	フェスタ検討の進め方再確認、啓発記事/広告デザイン検討・確認、他
	24日(火)	国際環境規制総合委員会	地域別アップデート、冊子進捗、海外出張検討
	25日(水)	蓄電池設備認定委員会	蓄電池設備の資格登録の審査、型式認定の審査
二次電池部会	12日(木)	技術委員会	SBA G 0304改正に関する審議
	16日(月)	自動車鉛分科会	IEC、JIS及びSBA規格改正計画審議
	17日(火)	据置鉛分科会	IEC、JIS及びSBA規格改正計画審議
	18日(水)	PL委員会	電池爆発件数審議、有毒ガス市場啓発審議
	19日(木)	産電技術サービス分科会	蓄電池設備の点検・整備・工事の安全に関するリーフレット作成
	20日(金)	IEC TC21/WG8 国際会議(PT62902)	IEC 62902(識別表示) 審議
	20日(金)	充電器分科会	9資-05改正審議
	20日(金)	用語分科会	SBA規格票の作成指針 改正審議、他
	23日(月)	産電リサイクル委員会、広域認定分科会	広域認定申請状況確認、新規申請方法審議、他
	24日(火)	IEC TC21/WG2 MG2 国際会議	補機用鉛電池の性能評価方法に関する審議
25日(水)	技術サービス分科会	TS-004冊子改定審議	
二次電池第2部会	10日(火)	リユース規格分科会-リユース・リサイクルTF合同会議	リユース規格に関する審議
	10日(火)	LIB安全性技術WG	内部短絡試験に関する技術検討
	10日(火)・11日(水)	IEC PT63369 国際会議(Web)	IEC 63369(GFP規格)の検討審議対応
	12日(木)	産業用ニッケル水素分科会	IEC規格検討
	12日(木)	小型全固体LIB輸送WG	小型全固体LIBの輸送規制に関する検討
	16日(月)	法規WG	蓄電池の規制適正化検討
	16日(月)	リチウム二次分科会	JIS C 62133-2 改正に向けた協議
	17日(火)	国際電池輸送委員会	危険物輸送の国際会議に関する対応
	17日(火)	環境規格分科会	IEC規格対応協議
	18日(水)	蓄電システムWG	建築設備計画基準/設計基準改訂検討
	18日(水)	CFP規格分科会	産業用LIBのカーボンフットプリント規格対応
	19日(木)	再資源化委員会	蓄電池再資源化に関する対応
	20日(金)	IEC TC21/WG8 国際会議(PT62902)	IEC 62902(識別表示) 審議
	20日(金)	普及促進委員会	蓄電池システムの普及促進検討
	20日(金)	PL委員会	安全啓蒙施策、事故情報集計
	23日(月)	据置LIB分科会	産業用LIBのIEC規格対応、JIS C 8715-2原案作成分科会
	24日(火)	国際電池規格委員会	IEC ANSI規格 審議対応
	24日(火)	非駆動用車載LIB分科会	非駆動用LIBのIEC規格策定
	24日(火)	小型全固体LIB輸送WG	小型全固体LIBの輸送規制に関する検討
	25日(水)	技術委員会	技術全般に係る審議事項への対応
26日(木)	ニカド・ニッケル水素分科会	ニカド・ニッケル水素電池 性能規格の改訂審議	
30日(月)・31日(火)	IEC PT63369 国際会議(Web)	IEC 63369(GFP規格)の検討審議対応	
一次電池部会	11日(水)	規格委員会	IEC60086-1,2,4,6 TC35会議に向けた協議
	12日(木)	規格委員会	IEC62281 TC35会議に向けた協議、JIS C 8514改正内容協議
	13日(金)	コイン形リチウム二次分科会	IEC61960-4 改正提案に向けた協議
	13日(金)	消費者委員会	災害発生時の支援物資 供給対応
	18日(水)	器具委員会	BAJ規格「SBA S 1601 携帯電灯」の改正検討
	20日(金)	ボタン電池回収推進委員会	2021年度事業結果、条約・国内法関連アップデート
	27日(金)	資材委員会	原材料の需給・価格動向の分析

3 月度電池販売実績（経済産業省機械統計）

（2022年 3月）

単位：数量一千個、金額一百万円（少数以下四捨五入の為、合計が合わないことがあります）

2011年1月より経済産業省の機械統計は「マンガン乾電池」を「その他の乾電池」に統合されました。

2011年1月より経済産業省の機械統計が「その他の鉛蓄電池」に「小形制御弁式」が含まれました。

2009年12月より経済産業省の機械統計が「その他のアルカリ蓄電池」に「完全密閉式」が含まれました。

「その他の鉛蓄電池」は「二輪自動車用」、「小形制御弁式」を含む。

（2011年～2012年は経済産業省機械統計の「酸化銀電池」は「その他の乾電池」を含む）

2012年より経済産業省の機械統計が「リチウムイオン蓄電池」は「車載用」が新設されました。

（2011年までの「リチウムイオン蓄電池」には「車載用」は含まれていません）

「その他の乾電池」を削除する。（2013年経済産業省機械統計より）

2017年9月より経済産業省機械統計のアルカリ乾電池「単三」「単四」は公開されていません。

2022年1月より経済産業省の機械統計は「その他のアルカリマンガン乾電池」は「アルカリ乾電池計」に統合されました。

	単 月				1月～当月累計			
	数量	金額	数量 前年比	金額 前年比	数量	金額	数量 前年比	金額 前年比
全電池合計	427,753	113,575	98%	110%	1,111,544	286,974	102%	108%
一次電池計	237,924	8,224	92%	101%	693,045	24,080	104%	110%
酸化銀電池	58,809	1,302	110%	122%	178,742	3,772	119%	132%
アルカリ乾電池計	93,815	3,273	76%	94%	280,476	10,251	94%	105%
単 三	-	-	-	-	-	-	-	-
単 四	-	-	-	-	-	-	-	-
その他	-	-	-	-	-	-	-	-
リチウム電池	85,300	3,649	104%	103%	233,827	10,057	108%	109%
二次電池計	189,829	105,351	107%	111%	418,499	262,894	99%	108%
鉛電池計	2,652	17,690	91%	97%	7,845	52,150	95%	101%
自動車用	2,137	12,015	96%	105%	6,151	34,716	96%	104%
その他の鉛蓄電池	515	5,675	77%	83%	1,694	17,434	91%	95%
アルカリ蓄電池計	48,153	24,073	95%	115%	122,026	61,241	93%	111%
ニッケル水素	45,927	23,476	96%	116%	115,509	59,572	95%	112%
その他のアルカリ蓄電池	2,226	597	80%	90%	6,517	1,669	75%	88%
リチウムイオン蓄電池計	139,024	63,588	112%	113%	288,628	149,503	102%	109%
車載用	106,510	48,964	115%	111%	202,803	114,006	105%	109%
その他	32,514	14,624	104%	123%	85,825	35,497	96%	111%

3 月度電池輸出入実績（財務省貿易統計）

（2022年 3月）

単位：数量一千個、金額一百万円（少数以下四捨五入の為、合計が合わないことがあります）

2012年より二次電池の輸入項目「その他の二次」が「ニッケル水素」「リチウムイオン」「その他の二次」に分かれました。

2016年より一次電池の輸入項目「アルカリ」が「アルカリボタン」「アルカリその他」に分かれました。

	単 月				1月～当月累計			
	数量	金額	数量 前年比	金額 前年比	数量	金額	数量 前年比	金額 前年比
全電池合計（輸 出）	299,432	78,365	128%	134%	674,626	173,508	111%	116%
一次電池計	137,154	3,863	129%	97%	349,310	9,704	119%	107%
マンガン	3	0	—	—	128	6	—	—
アルカリ	14,643	225	182%	195%	44,127	686	149%	158%
酸化銀	50,749	1,018	119%	147%	143,105	2,701	116%	137%
リチウム	71,759	2,396	129%	116%	161,949	5,460	116%	114%
空気亜鉛	0	0	—	—	0	0	0%	0%
その他の一次	0	223	39%	20%	1	851	59%	47%
二次電池計	162,278	74,503	126%	136%	325,315	163,804	104%	116%
鉛蓄電池	165	1,159	99%	98%	435	3,215	100%	107%
ニカド	334	75	64%	34%	832	177	44%	42%
ニッケル鉄	0	0	0%	0%	0	0	0%	0%
ニッケル水素	17,143	14,726	91%	181%	38,577	32,780	85%	140%
リチウムイオン	133,559	46,480	137%	133%	253,714	95,978	109%	111%
その他の二次	11,077	12,064	95%	119%	31,756	31,655	96%	116%
全電池合計（輸 入）	163,358	29,906	140%	136%	445,380	81,805	132%	131%
一次電池計	155,390	2,345	143%	132%	421,488	6,483	134%	135%
マンガン	8,950	111	82%	104%	30,564	373	95%	117%
アルカリボタン	1,989	18	127%	152%	7,059	66	140%	197%
アルカリその他	122,781	1,487	155%	152%	327,946	4,052	145%	148%
酸化銀	94	5	86%	106%	557	21	141%	169%
リチウム	15,603	595	150%	113%	41,170	1,613	133%	121%
空気亜鉛	5,967	124	91%	124%	14,180	325	76%	109%
その他の一次	6	5	102%	10%	12	33	135%	39%
二次電池計	7,969	27,561	98%	136%	23,892	75,323	98%	131%
鉛蓄電池	804	4,494	92%	111%	2,371	12,266	97%	108%
ニカド	65	145	93%	83%	169	336	83%	84%
ニッケル鉄	0	0	0%	0%	0	0	0%	0%
ニッケル水素	1,715	389	80%	99%	6,027	1,283	101%	121%
リチウムイオン	5,354	20,471	106%	143%	15,175	55,410	97%	135%
その他の二次	29	2,063	133%	165%	150	6,027	260%	174%